

皆生海岸清掃奉仕実施

平成八年六月九日

1996年(平成8年)6月11日(火曜日)

山陰中央新報 多版

米子の環境問題考える企業懇話会

社員、家族ら参加し皆生海岸で清掃奉仕

「地域に貢献」600人集う



▲6月11日付け
山陰中央新報新聞の紹介記事

「皆生海岸美化清掃について」

堀田石油株式会社 上野 正志

六月九日(日)朝、指定の集合場所へ到着する。既にかなりの人達が集まっている。企業関係以外の一般の方も次々と来られる。これから海水浴や観光客で賑わうであろう、米子市の観光スポットを、すこしでも気持ち良く利用して頂けるよう、「バローバー」とバスで移動。掃除を開始。自立のは、ジユース等の空缶と煙草の吸殻。

「浜の真砂は広さるとも……」といふ有名な言葉があるが、どうもポイ捨てというのにならなかが改まらないようだ。普段は見過ごしてしまった「ゴミ」の日ばかりは逃さず、いい汗をかいて終る。

「皆生海岸美化清掃活動に参加して」

社員 真澄

六月の一斉清掃は、当社として参加人員は僅かであります。しかし、参加者全員が十分満足感を得ることができます。私自身、皆生周辺に住む者として、一日で海岸が見ちがえるほどきれいになり、たいへん良かったと思いました。私たちは、海岸を散歩した際、あちこちに「ゴミ」が放置されていたのが、なんとも残念な気がしました。

「皆生海岸美化清掃活動に参加して」

原徳チエーン本部 野口 房雄

私の会社は山陰各地に店舗を持ち、小売を業としています。その小売の中で当然いろいろな物がゴミとしてでてくるわけです。その「ゴミ」の中でも再生が出来る、スーパー、トレー、牛乳パック、等を回収箱を設けて、現在に至っています。

また「割りばし」を回収して、紙に再生されている王子製紙の記事を読んだ当社の副会長は全店に支持を出し、「割りばし」の回収をはじめました。

その運動の中に、皆生海岸美化清掃の依頼があり、当社から十一名参加しました。ビン、カン、木、網、いろいろな日本人のマナーは言われているほどの低いことを感じました。私は、おもつたより少ないが、私がおもつたより少ないが、私は素直でやさしい心になるのです。

何をするにも少しの勇気と努力がいる

です。心身共にたいへん有意義なことであります。これからも豊かな自然を守り、長く継続していくつもりでいます。

「皆生海岸美化清掃活動に参加して」

永瀬石油株式会社 井澤 公美恵

親子三人で出かけることがあります。が、「ゴミ拾いボランティア活動」に参加しているときは、今回が初めてでした。皆生には、海水浴シーズンに数回行くことはあります。その時にゴミが落ちているのを見て幻滅することがあります。

思つてこたまつた方の参加も多く、

三歳になる我が子にはボランティア活動といふことは分からなかつたと思います。

ますが海をきれいにするお手伝いをして、おかないと、大人になつても「ゴミ

を捨てる人は後を絶たないでしょう。

自分が母親となつた今、旦頃から良いからも機会があれば親子で参加して行きたいと思つています。

見本に」なるよう気をつけたり、これ

を捨てる人は後を絶たないでしょう。

大切にする気持ちは、子供の頃から教

えておかないと、大人になつても「ゴミ

を捨てる人は後を絶たないでしょう。

自分が母親となつた今、旦頃から良い

からも機会があれば親子で参加して行

きたいと思つています。

(平成八年六月十五日号の社内報より)

「皆生海岸美化清掃についての感想」

株式会社高島屋 米子 中嶋 祐子

一日の始まりを無機質な建物の中で過ごす。あちこちに「ゴミ」が放置されていました。私は、美化清掃の上でのやつていることは地球環境保護の上で、ほんとうに些細なことです。あれ自然の中に我が身を投じること

す。おひて米子の観光地を代表する皆生海岸を歩き、清掃作業をする行為も、青い空や海をより一層美しい景観にすむ演出効果になり、一石二鳥であると言えます。そういう点では非常に満足し充実した気分を味わうことができます。しかし、個人が無責任に捨てたと思われる想像を絶する「ゴミ」の量や、「ゴミ」とは言ひ難い様々な物を目のあたりに驚いたのも事実です。

他人が出した「ゴミ」の山をなぜ「ボランティア」という形で処理しなければならないのかという疑問で頭が一杯でした。自分が出した「ゴミ」は自分が持ち帰ることは、少なくとも意識の範囲内であるはずです。環境問題について何の意識も持たない人達の出した残骸を尻拭いをしなければならない世の中が何か間違つていると痛感しました。

この清掃作業ボランティアも、環境問題を考えるひとつの手段であり、参

加された方ははじめて意識の高い方々だと思いますが、もう一步踏み込んで考えるとすれば、「ゴミ」を出す一人一人の意識を変え環境問題について真剣に取り組んでやうつこと、自然を守り共存していく為に大切なことではない

後始末するかの様に、ボランティアで尻拭いをしなければならない世の中が何か間違つていると痛感しました。

この清掃作業ボランティアも、環境問題を考えるひとつの手段であり、参

加された方ははじめて意識の高い方々だと思いますが、もう一步踏み込んで考えるとすれば、「ゴミ」を出す一人一人の意識を変え環境問題について真剣に取り組んでやうつこと、自然を守り共存していく為に大切なことではない

後始末するかの様に、ボランティアで尻拭いをしなければならない世の中が何か間違つていると痛感しました。

この清掃作業ボランティアも、環境問題を考えるひとつの手段であり、参

加された方ははじめて意識の高い方々

だと思いますが、もう一步踏み込んで

考えるとすれば、「ゴミ」を出す一人一人の意識を変え環境問題について真剣に取り組んでやうつこと、自然を守り共存していく為に大切なことではない

後始末するかの様に、ボランティアで

尻拭いをしなければならない世の中が

何か間違つていると痛感しました。

この清掃作業ボランティアも、環境問題を考えるひとつの手段であり、参

加された方ははじめて意識の高い方々

だと思いますが、もう一步踏み込んで

考えるとすれば、「ゴミ」を出す一人一人の意識を変え環境問題について真剣に取り組んでやうつこと、自然を守り共存していく為に大切なことではない